

留学報告書

川俣朝翔

私の中国留学で経験したことや感じたことについて述べる。まず、留学に行く前はワクワクする気持ち以上に不安な気持ちが勝っていた。日本であれば、何かあっても両親や先生、友達など頼ることができる人たちがたくさんいるが、中国に行ったら、わからないことだらけだし、頼ることができる人もほとんどいないだろうということを考えると不安で仕方がなかった。そして、実際に中国に到着してからはしばらくは不安な気持ちのまま過ごしていた。すぐに授業が始まるわけではなく、初めに様々な手続きを行った。それらの手続きをするだけでも時間がかかり、わからないことばかりでとても大変だった。その後、筆記試験と面接のような試験を受けて、クラス分けが実施された。そのテストで上のクラスに決められたこともあり、授業についていけるだろうかという不安をより強く感じてしまった。最初の授業ではほとんど聞き取ることができなかったので、その時に強い焦りを感じたことを今でもよく覚えている。しかし、必死に授業についていくうちに自分の中国語の能力が上がっていくのも実感でき、授業の形式になれたこともあり、先生の話の適度に聞いていてもある程度授業が理解できるようになったし、他の外国の生徒同士の会話なども聞き取れるようになっていった。中間試験や期末試験もさほど難しい試験ではなかったので少し勉強していれば単位を落とすようなこともなかった。しかし、それ以上に授業での生徒同士の会話や先生と生徒の会話を聞くことが私にとって一番大切な勉強であったように感じる。最初の頃に感じていた不安は留学中頃にはすでになくなっていた。また、私は他の人ほど外出しなかったが、たまに外出することで中国語の勉強やその時の自分の中国語の能力を確認することができとても良かった。またとても楽しい場所や歴史的に価値のある場所もたくさんあったのでとてもいい経験になった。とにかく外出することがいいと考えて普段から遊んでいた人もいたが、私はある程度の基礎がしっかりしていないと外へ出て遊んでいてもあまり意味がないと思っていたので、留学中頃から外出することを増やしていった。初めの頃とは違い、外出していても聞き取れる中国語が増えていく感覚がとても嬉しかったしとても楽しかった。だからこそもっと聞き取れるようにまた勉強を頑張ろうとも思えた。また、中国人と一緒に外出することで様々なことを話すことができたのも楽しかった。歴史的に有名な場所などに行った時には、やはり自分の知識だけでは対応できない部分が多かったが、仲の良い中国人が日本語を話すことができる中国人を連れてきてくれたこともあり、わかりやすく説明してもらうことができた。こういう機会に巡り会えたというのはとても運の良いことだとも思うし、とても良い経験となり、また、自分自身の知識を深めることもできたのでとても良かった。その他にも彼女たちには美味しい料理がある店にも連れて行ってもらった。そこでは、美味しい料理を食べながらそれらの料理についての様々な説明や学生らしい雑談、その他にも中国の生活で気をつけたほうがいいことやわからないこともたくさん質問させてもらった。連絡も交換していたので、もし宿題が難しくてもわからない場合もい

つでも相談していいと言ってくれた。その後も助けてもらってばかりだった。なかなかこれほどまでに親切な方に出会えることはないと思うので今も感謝の気持ちでいっぱいである。また、夜の王府井に行った時には、屋台などお土産が並んでいる場所があり中国らしさを体験することができた。何回かそういった場所にも行ったが、最初の方は中国語がすでに上手な日本人などについてきてもらって楽しんでいたが、後半は1人でも行くことができるようになり、慣れることができてとても良かった。しかし、それと同時にそういった場所には多くの危険も存在することを学んだ。例えば、王府井などに行ったときに、普段後ろに担いでいるリュックを体の前で持つようにするべきだということを学んだ。それは何故なら後ろのままにしていると簡単に物を取られてしまうからだという。これは、電車やバスに乗るときにもほとんどの観光客や海外の人々が意識してやっていた。中国に到着してまもないころに知り合った中国人や日本人の先輩からも同じことを教わったので中国で生活する上で本当に大切なことなのだと理解し、意識して生活した。私は中国語がさほど上手ではない友達と王府井の屋台に行ったとき、屋台の中国人と喧嘩になってしまった。相手の中国人が私を日本人と認識した瞬間に騙そうとしてきたのだ。しかも、その他の屋台の人間も一緒になって私を騙してきたのだ。しかし、相手の中国語も理解できたし、既に自分自身が少し中国語を話せるようになっていた頃だったので、決して引かずに中国語で対抗することができた。なんとかお金は返させることができたので、結果的にはとてもいい経験となった。また、タクシーに財布を落としてしまった友達がいたが、その財布も戻ってくることはなかった。しかし、私と友達が一緒にタクシーを降りたとき、私の友達が財布を落としたが、次に乗る中国人が私たちを呼び止めて財布を忘れていることを教えてくれた。もちろん危険なことはたくさんあるが、その中でも助け合いや優しい心遣いに触れることができる場面も少なくなかった。またその他に、学校の外に出て勉強になることの一つとして、商品を値引きすることが挙げられると思う。これについては、少し中国語が話せるようになり、相手の言っていることも理解できるようになったら挑戦してみるべきだと中国語の先生などもおっしゃっていた。中国で売られている商品の中には値引きをすることができる商品がたくさんあるので、値引きが上手にできるようになれば、日本に帰るときに買うお土産なども安く買うことができるのでとても大切な技術だと思った。私は実際に物を買うときに値引きに挑戦したことがあったが、日本で買ったパンフレットに書いてあったような値段まで値引きすることができた。何度も条件を変えたりして上手に交渉することができたのではないかと思う。また、これに挑戦することによって日本にいたときよりも少しは自信や度胸というものがついたので、とても貴重な体験だったと思う。また、その他に感じたこととして、他国の人と共同生活はとにかく大変なことが多いということを痛感した。私は日本でもよく一緒に遊んでいた人と同じ部屋にして生活していた。日本人同士で同じ部屋にするとよく喧嘩になると聞いていたが私とその友達は喧嘩などにはならず、特に問題なく留学生生活を過ごすことができたのでとてもよかった。しかし、他の国の人と同じ部屋にしていた人は様々な苦勞をしていたようだ。留学当初はいい関係をキープしていた部屋の人も

最後の頃には喧嘩をする機会も増えてしまったようだ。また、その他の日本人のルームメイトに関する話も聞いたが、やはり様々な問題を抱えていたようだ。やはり、宗教が全く違うということもあり、1日に何度も部屋の中でお祈りのようなことをされたり、キッチンがあるにもかかわらず部屋の中で香りの強い香辛料を使った料理なども作られることにより室内のものすべてに匂いがついてしまったり、夜中まで大音量で音楽を聴いたり友達と電話をしていたりと、私が聞いた話だけでもたくさんの苦労があることを知った。やはり、今まで生活していた環境が全く違う人と共に生活するという事は私たちが頭でなんとなく理解していたことよりもはるかに苦労が絶えないことなのだという事を改めて実感した。しかし、私はたまに会うだけだったのでそのルームメイトたちとも仲良くすることができた。一緒に遊びに行ったこともあり、その時は、中国語はもちろんだが、その他の様々なわからないことについても教えてもらうことができた。私自身はとてもよくしてもらったのでいい思い出が多い。中国語が全く話せない外国人もいたが、そういった人とは英語でコミュニケーションをとることができたということもよかった。一緒に行った日本人の中には全く英語が話せないという人もいたので、英語が少しでも話せたということがだいぶ自分を助けることになったと思うのでとてもよかった。私は特に問題なく過ごせたとし、ストレスもなかったが、正直、留学を半分過ぎたぐらいの頃から日本の実家に帰りたという気持ちが強くなっていった。なぜなら、中国での生活にある程度慣れてきたことで逆に毎日に追われているような感覚がなくなったので、少し落ち着いて何もしなくていいときなどがあると家が恋しくなってしまう。日本に早く帰りたと言っている人がほとんどだったのも事実である。また、その理由として考えられるのは、中国のトイレの汚さや空気の汚染問題などもあるのではないかと思う。中国のトイレに関しては、男子トイレよりも女子トイレのほうが汚かったようである。なので、女性の方々は特に不快な思いをしていたのではないだろうか。空気の汚染問題に関しても、視界が悪く本当に深刻な時には北京の小中学校などは休講になっていたようだったが、大学はどんな時でも毎日登校しなければならなかったので持病の人は大変だったと思う。具体的に症状となって現れた人は少ないかもしれないが、だからこそ募る不安というものもあった。そういった点でもう少し配慮していただけたらとてもありがたかったと思う。しかし、最後まで中国で頑張って生活し終えた今だからこそ、そこからの半分の生活がとても大切なものであったという風に思う。それは、ある程度中国の生活に慣れたこともあり、今まで挑戦していなかったようなことにも挑戦できたり、クリスマスなどのイベント一つとってもそこには中国ならではの文化が含まれていたり、それらを体験することができたというのは、これから中国語の学習を続けていく者にとってとても大切なことであつたように感じる。また、勉強の仕方も先生方から教えていただくことができた。日本人は漢字を読み書きできるという強みがあるので、欧米の人とは勉強の仕方や手順を変えたほうが中国語の上達も早く進むようだ。これら教えていただいた勉強法などは中国で勉強する時にもとても役に立ったが、中国から帰った今でも中国語を勉強していく時に生かしていける技術であると思う。これら中国で体験したことをこれから

も様々な部分に活かしていきたい。